

妊婦のTORCH感染

国立仙台病院ウイルスセンター

沼崎義夫

目 的

子宮内感染の主要な病因は toxoplasma, rubella virus, cytomegalovirus, herpes simplex virus の4つであり, TORCH complex といわれている。本邦における TORCH complex の実態を解明するのが本研究の目的である。しかし, Herpes simplex virus の子宮内感染はほとんど問題にならないことを既に報告しているので, 今回は TRC (toxoplasma, rubella, cytomegalo) の3つについて報告する。

方 法

1) 妊娠初期, 中期および満期の3回血清を採取し, TORCH抗体の上昇により妊婦のTORCH感染を血清学的に診断する。

2) 臍帯血のIgMレベルの上昇から子宮内感染を検索し, TORCH感染との関係を調べる。toxoplasma は間接ラテックス凝集反応(トキシテスト栄研), rubella は赤血球凝集反応(HA抗原デンカ), cytomegalo は自家製抗原によるCF反応を用い, それぞれの抗体を測定した。臍帯血のIgMはレーザーネフロメーター(ハイランド)で測定した。

結 果

1. 妊婦のTRC抗体陽性率

昭和51年から59年までに検索した成績は次の通りであった。

1) toxo 抗体は6,972例中1,474例(21%)陽性であったが, これは一応トキシテスト16倍を陽性と見なしての数字である。トキシテストの抗体価分布を年次別にみると16倍以下の陰性率が51年に60%だったものが年々増加し,

57年には87%になっている。陰性者が増えた分どこが減ったかという点, 16倍, 32倍の陽性者が減ったのである。128倍, 256倍の陽性率はまったく変わっていない。

これは真の抗体陰性者が減ったのではなく, 非特異反応による偽陽性者が減ったのである。厚生省心身障害研究・妊婦管理研究班(昭和55~57年)において, われわれはトキシテストの非特異反応を指摘したが, その後メーカーが抗原の調製を吟味した結果, 非特異反応が減少したものと考えられる。

2) rubella の抗体陽性率は6,930例中5,842例(84%)であったが, 59年の陰性者が20%であり, 妊婦の風疹発生は今後も十分注意しなければならない。

3) CMV抗体の陽性率は5,791例中5,552例(96%)と高率である。陽性率は10年間一定しており, CMVの伝播が環境の変化による影響を受けていないことを示唆している。

2. 妊婦のTRC抗体上昇

妊娠中にTRC抗体が上昇すれば, その間にTRC感染があったことが示唆される。上昇例は次の通りであった。

1) toxo は6,930例中9例(0.13%)。

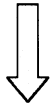
2) rubella は6,930例中13例(0.19%)

3) CMVは5,791例中51例(0.88%)。

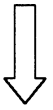
toxco およびCMV 5抗体上昇妊婦から生れた児はすべて正常であった。rubella は妊娠5カ月前の上昇4例は妊娠を中絶した。6カ月以後の上昇, 9例は自然分娩児は正常であった。

3. 臍帯血IgMレベルの上昇例とTRC感染

7,533例の臍帯血中IgMレベルが50mg以上の高値を示したものが30例(0.4%)あったが, TRC感染とは無関係であった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

子宮内感染の主要な病因は toxoplasma, rubella virus, cytomegalovirus, herpes simplex virus の4つであり, TORCH complex といわれている。本邦における TORCH complex の実態を解明するのが本研究の目的である。しかし, Herpes simplex virus の子宮内感染はほとんど問題にならないことを既に報告しているので, 今回は TRC (toxoplasma, rubella, cytomegalo) の3つについて報告する。